

# クラス担任のための Career Guidance

2015 >> VOL.25

キャリアガイダンス 特別編集



## 将来を考える動機づけ 「お金と仕事」をシミュレーションする

生徒が自分の将来をリアルに考えるキッカケとなるような、「お金と仕事」をシミュレーションするワークに注目してみました。

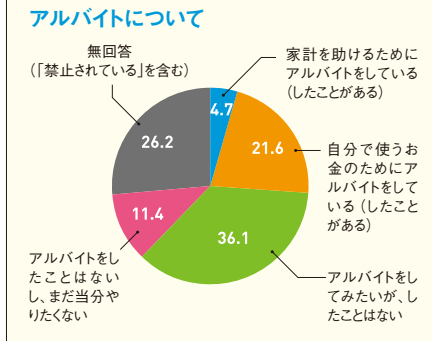
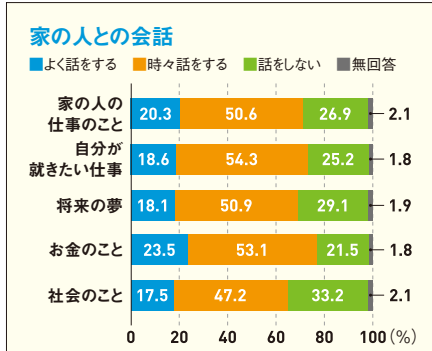
### キャリア教育の基礎として 「お金」について考える機会を作る

高校生にとって、自分で稼ぎ自立した生活というのは、漠然とした未来でなかなか想像しづらいのではないだろうか。金融広報中央委員会「知るぼろ」が、平成22年に調査した「子どものくらしとお金に関する調査」では、高校生で、家の人とお金のことによく話すというのは23.5%。逆に話をしないという高校生は21.5%いた。しかも、社会のことがとなると、話をしないという高校生が33.2%いて、それだけ社会や経済についての大人と日常会話が少ないということが見て取れる。さらに、アルバイトは「してみたいが、したことはない」が36.1%。「家計を助けるため」「自分で使うお金のため」にアルバイトをしている（したことがある）という生徒は、26%程度にとどまる。実際に自分が「稼ぐ」という実感は、やはり高校生には遠い存在といえそうだ。

認定NPO法人育て上げネットでは、二ト化を防ぎ、社会的自立を目指すために「お金」のことを考える機会が重要とらえ、新生銀行とともに「MoneyConnection®」という金銭基礎教育プログラムを開発している。このプログラムを高校生向けに実施しているのは、進路選択が人生の重要な分岐点になる世代だからだ。「生きていくためにはお金が不可欠。新しいことにチャレンジするにも経済的な安定は大事で、進路を狭めないためには貯金も必要。今がよければ良いという暮らしではなく、将来をイメージしながら慎重に進路を選択することも大切。そんなメッセージが、このプログラムには込められています」と語るのは、育て上げネット理事の深谷友美子さん。

同プログラムは、教材や授業の進め方のマニュアルが、学校の先生向けにWEB上で公開されている。そこで今回は、このプログラムを通して将来のお金や仕事のことを考える意義を探ってみた。

### 「子どものくらしとお金に関する調査」 (平成22年度)



金融広報中央委員会「知るぼろ」調べより

### 『MoneyConnection®』 「稼ぐ」編 / プログラムの主な流れ

**<場作り>**

- 5~6名で1グループの班になる。
- プログラムの説明を行う。

**<内容>**

- 1 アイスブレイク**  
「明日から一人暮らし！必要な金額(生活コスト)を考えてみよう！」  
ワークシートに、それぞれいくらくらいかかるかを個人ワークとして記入していく。
- 2 「稼ぎ方・働き方カード」を生徒たちが1枚ずつ引く。**  
「正社員」「派遣社員」「フリーター」の3種類の仕事がある。
- 3 「月収カード」を生徒たちが1枚ずつ引く。**  
「15万円」「30万円」「100万円」の3種類がある。
- 4 自分が引いた条件をもとに、ワークシートに記入していく。**  
自分の条件で、1か月に何時間働く必要があるのかや、その働き方で自由時間はどのくらいあるのかなど、具体的に生活をシミュレーションする。個人ワークののち、グループで話し合う。
- 5 「暮らし方カード」を生徒たちが1枚ずつ引き、内容をワークシートに記入。**  
「37歳、マイホーム、結婚している、子ども2人」など出てきた条件に応じて、収入や自由時間に対してどう感じるかを記入し、グループでさらに話し合う。

認定NPO法人育て上げネット理事  
深谷友美子さん

「年間150~170校くらいにご利用いただいているプログラムです。ダウンロードをして、先生方が直接指導されることもできますし、このプログラムの講師資格をもつ社会人がファシリテーター(講師)として無料で出張授業を行うことも可能です(所定条件を満たす場合)。ぜひお問い合わせください」  
<http://moneyconnection.jp/>

「MoneyConnection®」では、「稼ぐ」編と「使う」編の2種類のプログラムが用意されている。そのどちらも、職業や年齢、月給などがカードによって決められ、その条件だと自分の生活がどうなるかをワークシートの課題でシミュレーションする。(※コラム参照)

「稼ぐ」に注目したシミュレーションでは、まず最初に、アイスブレイクも兼ねて、「明日から一人暮らし！必要な金額(生活コスト)を考えてみよう！」のワークシートを行う。実際に生活するために、どんなお金が必要になるのか、項目に沿って想定金額を記入し話し合う。社会保険など、高校生ではなかなか気づかない項目もあり、「生活」のためには、意外なお金が必要になると気づくのだ。そのうえで、「正社員」「派遣社員」「フリーター」といった雇用形態と、月収が「15万円」「30万円」「100万円」かをカードで引いて決定しシミュレーションする。

場合によっては、「フリーター」で月収「100万円」という組み合わせもあり

また、家族構成や年齢など、ライフスタイルを規定したカードを引くことで、「子どもができて」と学費もかかるから、「このお給料では足りなくなるかも」など、さらなる気づきもある。

「このプログラムを進行するうえで、講師が最も気をつけているのは、職業を比較して「だから、正社員のほうがいいよね」といったような指示をしないということ。あくまでも、生徒自身の気づきを大切にしています」

**具体的に将来を考えるキッカケとして役立てる**

「このプログラムを受講した高校生は、お金ってこんなにかかるんだと改めて理解したり、保護者への感謝を口にする生徒も出てきます。将来をしっかりと考えて安定して働きたいなど、生徒の気づきはさまざまです」と深谷さん。シミュレーションによって「体感」するからこそ、余韻が残る。それが、キャリアを考える始めるキッカケになることも少なくない。

「実際に、このプログラムを実施したあと、進路指導室を訪れる生徒が増えたという学校があったり、求人票の見方がしっかりしたという声を聞きます」というのだ。

「お金と仕事」のベースを考えることで、次に「じゃあ、自分はどのように稼いでいこうか」と現実と目を向けやすくなるのだらう。

将来や進路を考える動機づけとして、大いに役立てたい。

リウナビ進学 高校生の主体的な進路選択を応援する先生のための  
**Career Guidance**  
キャリアガイダンス 進路指導・キャリア教育の専門誌

【最新号】Vol.405号 2014年12月発行

■特集  
**アクティブラーニングで変わる授業と生徒の未来**

- 追跡！AL導入から1年、生徒はどう変わったのか？  
藤沢清流高校(神奈川県)
- ケース別 授業実践の悩みはこう解決！  
小林昭文(産業能率大学)
- 学びの本質に向かう授業改革  
三宅なほみ(東京大学・大学総合教育研究センター)  
水野正朗(名古屋国立総合大学)  
田村 学(文部科学省・国立教育政策研究所)

先進校に学ぶキャリア教育の実践 / 田柄高校(東京都)  
進路指導実践を磨く！  
「自信と職業観を育成する 進路多様校での体験型学習」

「キャリアガイダンス」誌は全国の高校に贈呈しています(校長、教頭、副校長、進路指導室先生宛に郵送)  
バックナンバーの記事はすべてWEBサイトで閲覧いただけます  
[http://souken.shingakunet.com/career\\_g/](http://souken.shingakunet.com/career_g/) キュリアガイダンス 検索